

国際関連情報 国際会議等

2020 年 10 月開催 ASAF 会議報告

ASBJ 常勤委員 やのう り え こ
矢農 理恵子

はじめに

2020 年 10 月 2 日、第 28 回会計基準アドバイザー・フォーラム（ASAF）会議が開催され、企業会計基準委員会（ASBJ）からは小賀坂委員長以下が参加した。この会議は通常ロンドンで開催されているが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、前回（2020 年 4 月 2 日開催）と同様、国際会計基準審議会（IASB）の理事を含め、全参加者がビデオ参加する形式で開催された。

今回の議題は、以下のとおりであった。

- (1) のれん及び減損
- (2) 共通支配下の企業結合
- (3) FASB 概念フレームワーク公開草案（財務諸表の構成要素）
- (4) プロジェクトの近況報告と次回 ASAF 会議の議題

本稿では、(1)について、ASBJ の発言を中心に議論の概要を紹介する。

のれん及び減損：IASB によるディスカッション・ペーパー

(1) 議題の概要

IASB は、本年 3 月にのれんの会計処理及び開示に関するディスカッション・ペーパー「企業結合—開示、のれん及び減損」（以下「DP」という。）¹ を公表している。DP は、企業が行う取得²について、合理的なコストで投資家に提供する情報を改善することを目的として、主に、開示の改善及びのれんの会計処理の改善を検討している。IASB の予備的見解は、以下のとおりである。

(a) 取得に関する開示の改善

- 企業は、取得の年度において、取得に関する経営者の目的を開示し、その後の期間において、取得が当該目的に照らして成果を上げたかを開示する。

(b) のれんの会計処理の改善

- 減損テストの有効性を合理的なコストで高めることはできない。
- のれんは償却すべきでなく、減損のみモデルを維持すべきである。

1 DP 公表時においてはコメント期限は本年 9 月 15 日とされていたものの、4 月 17 日に開催された IASB 臨時ボード会議において、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、本年 12 月 31 日に延長することが決定されている。

2 DP では、「取得（acquisition）」は IFRS 第 3 号「企業結合」の範囲にある企業結合を指し、取得企業が 1 つ又は複数の事業に対する支配を獲得する取引又はその他の事象と定義されるとしている。

- 減損テストの簡素化は可能であり、年次の減損テストの緩和と使用価値の見積りの簡素化を図ることができる。

(c) その他のトピック

- のれん控除後の資本合計の金額を貸借対照表に表示することを要求する。
- 企業結合で認識する無形資産の範囲は変更しない。

今回の ASAF 会議では、主に、ASAF メンバーが実施したアウトリーチで得たフィードバックについてのインプットが求められた。

(2) 議論の状況

ASBJ からは、以下の発言を行った。

(a) 本プロジェクトの目的について

これまでのアウトリーチにおいて、我が国の関係者は、企業が投資者に対して取得に関するより有益な情報を提供できるかどうかを探るという本プロジェクトの目的には納得しておらず、IFRS 第 3 号「企業結合」の適用後レビューで提起された問題（「too little, too late」に関する問題等）を解決することが目的であるべきだと強く主張している。この点、DP における提案はこの問題に対応していない。

(b) 開示の改善について

DP の提案について、財務諸表利用者と財務諸表作成者の見解は分かれており、検討にあたり解決すべき課題が 2 点ある。

- 提案は、取得に関する背景情報や補足情報を提供するのみで、のれんや減損損失の状況を直接扱うものになっていない。
- 「財務報告に関する概念フレームワーク」や IFRS 基準において、何を財務諸表の注記に記載すべきかの境界線が明確にされていないため、DP で提案されている開示についても記載箇所をめぐり議論が進展していないよう

に思われる。

(c) 償却の再導入について

のれんの償却を再導入すべきかに関する議論における新しい証拠とは、必ずしも DP が公表された以後のものだけではなく、IFRS 第 3 号「企業結合」が公表された以後のものも含まれるのではないか。この点、2016 年 10 月に ASBJ が公表したリサーチ・ペーパー第 2 号「のれん及び減損に関する定量的調査」において指摘した、のれんの残高が積み上がっていることも新しい証拠の 1 つであると考ええる。

(d) 米国会計基準とのコンバージェンスについて

米国財務会計基準審議会（FASB）と IASB が緊密に協力して議論を進め、それぞれが我々の望む方向に向かって会計基準を開発していくことを期待している。

他の ASAF メンバーからは、開示の改善提案について、支持する意見と支持しない意見の両方が聞かれていることや、財務諸表の注記とすることに反対意見が出ていること等が報告された。また償却の再導入については、様々な意見が聞かれていること等が報告されたほか、FASB から、本年 7 月に償却を再導入するアプローチを追求する方向性について決定しているが議論すべき点はまだ多くあることが紹介された。

おわりに

前回に続き今回も全参加者がビデオ参加する形式で開催されたためか、各参加者の意見が簡潔に述べられ、双方向の議論は少なかったように思われる。今後の ASAF 会議の議題につい

ては、IASB のプロジェクトの進捗に応じて決定されるものと考えられる。